

(1) 大沢住区

1) 基本的な考え方

大沢住区は、河川軸である野川や大沢の里、国立天文台や国際基督教大学など、市内で最も多くの自然が残されている地域です。こうした豊かな自然環境の保全、回復及び創出を図るとともに、低層市街地として良好な住環境の保全を行います。

土地利用の観点からは、大学が多い地域については、文教研究施設としての環境を保持し、住宅と工業・業務施設が混在している地域は、周辺環境との調和を図りながら、都市型産業、地場産業等の保護・育成を行うほか、幹線道路である天文台通り等の街路事業を進めます。

2) 主な事業の方向

- ①大沢コミュニティ・センターの耐震化を図り、防災拠点化を推進するとともに、おおさわ学園大沢台小学校、おおさわ学園羽沢小学校の耐震補強工事を実施します。また、都が整備を進めている都立武蔵野の森公園については、調布飛行場とあわせて、広域的な防災拠点となるように都に要請します。
- ②道路整備については、都が進めている天文台通りの交通安全整備事業の促進を図るとともに、3・4・19号線の整備の促進、バリアフリーの重点整備路線である人見街道のけやき並木を取り込んだ歩道確保について、引き続き都に要請します。
- ③野川周辺については、緑と水の回遊ルートの拠点である大沢の里を中心に、国分寺崖線の樹林や湧水、河川の水辺空間など自然環境の保全を図るとともに、大沢の里周辺地域保全・活用検討委員会の提言等を踏まえ、武蔵野（野川流域）の水車経営農家及び大沢二丁目古民家（仮称）等を主軸にしたエコミュージアム事業を推進します。また、地域の歴史、文化財、自然資源を

- 結ぶエコミュージアム関連ルートの整備、学校教育と連携した取り組みを進めます。
- ④国際基督教大学の緑地・施設の市民開放について、引き続き関係者に協力を要請します。また、国立天文台の良好な自然環境を保全する中で、地域への開放に向けて、引き続き協議を進めるとともに、敷地内の1号宿舎については、文化財的な保存と、星と森と絵本の家（仮称）としての活用を図ります。
- ⑤コミュニティバス事業基本方針に基づき、西部ルートの見直しを行うとともに、サイクル・アンド・バスライドとして駐輪場を整備します。
- ⑥富士重工業（株）のある地域は、特別都市型産業等育成地区（特別用途地区）の指定により、今後も引き続き都市型産業を立地誘導し、広域的な産業関連施設や研究施設など、都市型産業の拠点となるよう環境を確保します。
- ⑦スポーツ・レクリエーション活動を推進するため、東京都及び関係団体と協議しながら、調布基地跡地の武蔵野の森公園内に、自然と調和した大沢総合グラウンドを整備します。



1 大沢住区

